

◇十二日替り◇
必ず良いと評判の映畫
帝キネ現代劇
藤間林太郎...主演
悲劇 天の恵 全巻
歌川八重子 小島洋々 助演

◇大帝キネ特作
市川百々之助 四役主演
捕物 朱房の十手
仇討 千草香子・東良之助 助演
冷水を浴びる様な剣戟！
同情にあたいする悲戀！
哀涙！
壯快なる争闘等の交措！
マキノ特作文藝俱樂部所
載

谷崎十郎 櫻木梅子 共演
ついでに 鳥羽玉 前篇
金子新 大林梅子 助演
勝見庸太郎の
海洋 血の船 全
大活劇 亂闘！快闘！血闘！の大活劇
劇 土曜晝アリアス

中元暑中の
御贈答には
何時も新味のある
ツルヤの品を.....
商品切手が最も便利です

ツルヤ
四丁目
電話百四十番

全日本...
電話百四十番

露披業開
科歯
口 腔 科
外 科
科 般
平町古銀治町八十八
神谷齒科醫院
日本齒科 醫學士 神谷 辰夫

藥舖並食堂開業
田町三六 (從來の藥局跡)
宇 佐 美 藥 舖
右 同 所
田 町 食 堂
(鮮魚仕出し)
三丁目郵便局前
移 轉 宇 佐 美 藥 局
御・愛・願・願・上・ま・す。
無代進呈 (傳染病豫防の爲)
日本一のガマ印蠟取紙一人二枚宛呈上

夏の適品を豊富に取揃へて!!
品質に!!柄行に!!又廉價に!!
御用命はごうぞ弊店へ
七月一日ヨリ
夏の着尺モスリン陳列
中形と綿絹の陳列
三井吳服店

市原醫院
平町田町(電話一一四番)
内科、小兒科 市原卯太郎
外科一般、婦人科 市原 陸郎
外科、梅毒、淋毒 市原三三男



刊夕日二十月七

寄 書
藝術始源に
關する一考察(二)
吉田 九郎
原始語根の研究によつて、
言語が原始社會の人間の勞
働のかけ聲から——決して
喜怒哀樂の叫び聲からでな
くて——進化したと爲す比
較言語學の推定は、偶々こ
の事を裏書するものであら
う。最初の藝術は、宛かも
當時の言語がその表はす意
味の確實性を欠いて居た様
に、その形態の確實性をも
欠いて居た。それは主とし
て集團的舞踊と、合唱との
混合物で今日バラッド・ダ

ンスの名を以て叫ばれて居
る所のものであつた。吾々
は之に近いものを長槍と楯
とを持つて演ぜられる生蕃
人の勇壯なる集團的舞踊に
於て見出す事ができる。そ
れは彼等の生活に於て非
常に重要な事件、即ち戰
争を觀念化した形に於て表
現するものである。その初
めには、恐らくは直接戰闘
に参加した人々が之を追憶
するまゝにその突撃をその
戰闘隊形をその叫喚を如實
に兩現して見たものであら
う。それが後には、過去の
戦ひに直接参加しなかつた
人々までも之に参加して之
が来るべき戦争に備へる豫

行演習の役割をも務めたも
のであつた。固より當時の
藝術の全てが戦争から生れ
たと云ふのではない。むし
ろ戦争をも含む、人類共同
の労働から出發したと見る
方が妥當であらう。少くも
も田植歌や打楽器やの起源
の如きは戦争から出たとは
考へられない。前者は田植
の際の懸聲から起つた、後
者は木樵の労働の際の斧の
響きの様な労働そのものに
附隨する音響とそのリズム
が注意をひいてそれが後に
は多人數が共同の労働を行
ふ際の調子を取る目的のた
めに利用されるに至つたの
である

二十日ヨリ上映
ムラダロブ
松竹蒲田大作 原作脚色...清水宏
柳さく子 藤野秀夫...主演
悲劇 海に叫ぶ女 全
弟の爲に其身を賭して其の生涯を涙に送る
柳獨占久方振りに見る大悲劇です
原 監 ナ 毎 半
作 督 デ ン 日
佛 次 佛 大...
氏 郎 吉 辻...
市川右太衛門 (松竹提督)
原作：山口天龍 監督長尾史録入社第一回作
年鑑 水野十郎左衛門 全
助演中村吉松 高堂國典 巴蝶子 梅田菊造
徳川四代寛文の頃でした。四谷六方白柄組水
野一味と賣俠を事とする町奴と意氣地と張り
で賣出した柳橋の名妓とを綴る名作
近日上映 (東京行進曲) (香掛時次郎)

營種目 石炭 コークス 玉炭
●警城第一ノ石炭トシテ自他共ニ推稱スル
●正味十貫目入 壹俵 金六十五錢
●日本第一番評番ノ良イ東京瓦斯コークス
一、コークス 壹俵 金壹圓三十錢
●木炭ノ三倍御徳用ナ九通ノ玉炭
一、玉 炭 大箱壹箱 金 貳 圓
配達ハ一俵ヨリイタシマス
電話 二二三七番
平驛前 阿部石炭商店

時計貴金屬眼鏡各種
蓄音器
ビクターレコード
新荷着是非御用命を
金光堂時計店へ
電話 七三六番

石城郡四倉町では本縣に於ける有数の海水浴場として知られ海水浴客の數も年々増加しつつあるが同町では浴客を歓迎する爲めに従來雨天或は海が荒れてゐる際には海に入る事が出来ぬのを一掃し同時に兒童等の危険を豫防する爲めに同町海岸に理想的のプールを新設する計劃をたて目下有志間に於て種々準備を進めてゐるが八月迄には竣工

四倉にプールを新設 海荒れや雨天に備ふ 浴客吸集の準備進む

石城郡各町村 戸數人口調
一番は平町

に於ける人口並に戸數調査を行つたが、それによると人口は二十一萬三千九百五十八人、戸數は二萬六千六百八十戸、一戸あたり平均六人弱で居住してゐる事になるが各町村を通じて一番人口戸數の多いのはなんと、いつても平町で人口は二萬六千二百八十九戸、戸數は四千六百六十八戸であるが最低は箕輪村で人口は一千三百四十五戸、戸數は僅百九十一戸にすぎない各町村の中一萬以上の人口をもつものは内郷村二萬二千六百九十一人、湯本町一萬三千四百五十八人、好間村一萬八百五十八人それに平町を加へて二

町二ヶ村のみで各町の人口を見ると勿來町七千九百五十五人、小名濱町七千四百四十四人、四倉町七千二百一十二人、植田町五千五百六十一人、江名町五千四百九十七人で此の中將來最も人口が増加すると見られてゐるは事業の中心地であるところの小名濱町である

氏の話があり聴衆七百名盛會であつた
晴れ暑氣 増す
健胃 小野常治謹製
羅本體 寒暖計 電話番

全然放棄ではなく 一縷の望みがある 地方開發の爲め 小名濱だけでも通過させたい 清水港灣 課長談

小名濱町會議員は昨報の如く築港の中止命令と共に大舉上京内務省大藏省等を歴訪陳情し猛運動を開始したが政府としては築港計劃を全然放棄するか又は繰延とするかは未だ決定して居ない模様で一縷の望みがあり且つ内務省の清水港灣課長も同情して次の如く語つて居た由「小名濱港は昭和四年度から九年度までの六ヶ年繼續事業として總工費二百二十萬圓の豫算をもつて既に起工式まで擧げたものであるが今回政府の方針によつて中止命令を發したことは地方開發の爲にも非常に遺憾なことだと思へてゐるが内務省としては嚴重に大藏省と交渉を重ね少くも小名濱だけは通過させたい希望を持つてゐる」

軍演奏曲目 映畫の呼び物

軍艦五十鈴の軍樂隊大演奏並に海軍思想普及の映畫の夕べは二十日午後六時から聚樂館において開催されるが當日の演奏曲目は小夜曲「ドリゴのセレナート」等曲「千鳥の曲」「圓舞曲」「東洋のバラ」序曲「ウキリアムテ」意想曲「森の鍛冶屋」映畫は「軍艦衣笠進水式」「國境の彼方」「大禮觀艦式」の實寫新派は「我は海の子」「蔚山沖の海戦」で泰西「魚に釣られて三千里」等呼び物である

夏期講習會で 業紹介指導 石城郡教育會

石城郡教育會主催夏期講習會は來る八月二日より四日間平町第一小學校講堂に開催する事に決定した本年

貨物自動車激増で 鐵道の影響が甚大 鐵道側では新策協議

最近平地方の自動車の發達は目覺しいものがある、この各般の影響中鐵道の小荷物運搬に對する影響は相當に大きいので鐵道側では目下對策を協議中であるが右につき平驛貨物係は左の如く語つてゐる

種馬獎勵金 廿日交付式

石城郡産馬組合では本年度の保留ひん馬と種馬管理獎勵金の交付者を十一日次の如く決定する二十日頃元郡役所で交付式を舉行すると



調味噌の作り方

材料 鯛の肉三百匁、白味噌三百匁、三盆砂糖百匁、味淋八匁、燒鹽少量

鯛の肉をよく洗ひ皮と骨を除きて其のまゝ蒸籠にて蒸し冷却してから細小にむしり置く、白味噌を摺鉢にてよくすり、全く麴が摺潰れたらば裏漉しにかけ直に鍋に移して右の調味噌と砂糖を入れて火にかけ絶えず飯杓子にかきまはしながら味淋を加へ燒鹽を好みだけ加へ火

江筋復舊 小川村から

石城郡下小川村關場原野十九町歩、同村神明神社境内一町歩は降雨毎に土砂流失するの防砂設備を施したが過般の洪水の爲め更に附近耕田並に小川江筋用水路が崩壊したので右荒廢地の復舊工事を施行して欲しいと十日小川江筋組合長國井茂氏から縣宛に申請する處あつた

共濟病院總會 磐城

共濟會にては十四日午後一時から聚樂館に於て定期總會並びに講演會を開く由

明日の天気 晴れ暑氣 増す

健胃 小野常治謹製

羅本體 寒暖計 電話番